

- DRM設立30周年記念行事開催報告 1
- H30 年度（第 I 四半期）の DRMDB の提供実績について 4
- 青森市三内中学校の訪問学習 5
- コラム 理事長 奥平 聖 6

DRM 設立 30 周年記念行事開催報告

一般財団法人日本デジタル道路地図協会は、1988（昭和 63）年 8 月 8 日、道路網及び道路地図に関する数値情報の調査研究とその標準化を推進し、道路及び道路交通の情報化に貢献することを目的として設立許可をいただきました。

おかげをもちまして本年設立 30 周年を迎えることから、これを記念して去る 8 月 8 日にホテルルポール麹町にて記念シンポジウム「ITS のこれまでと、これから」と記念パーティーを開催いたしました。



写真—2 基調講演
慶応義塾大学名誉教授 川嶋弘尚様



写真—1 主催者挨拶 理事長 奥平聖

記念シンポジウムは当協会理事長 奥平聖の挨拶の後、基調講演とパネルディスカッションを開催しました。

基調講演では慶応義塾大学名誉教授 川嶋弘尚様に自動運転と「道路」の関係、自動運転の ISO 標準化などについて貴重なお話をいただきました。

続いてのパネルディスカッションでは各界から次の皆様方にコーディネーター、パネリストとしてご参加いただき、自動運転の実現を支援する「道路」という観点から熱心なご討議をいただきました。

コーディネーター：

日本大学 交通システム工学科特任教授 石田東生様
パネリスト：

東京工業 大学環境・社会理工学院教授	朝倉康夫様
一般社団法人 日本自動車工業会	
自動運転検討会ユースケース WG	小川伯文様
国土交通省 道路局道路交通管理課	
高度道路交通システム推進室長	安部勝也様
国土交通省 国土技術政策総合研究所	
高度道路交通システム研究室長	池田裕二様
ダイナミックマップ基盤 (株) 営業部長	小澤 正様



写真—3 パネルディスカッション
コーディネーターとパネリストの皆様

シンポジウムが始まると会場は空席が見えなくなり、事前に申し込みをいただいた企業や関係機関の皆様が、スクリーンや手元の資料を参照しながら熱心に聞き入っておられました。

自動運転とそれを支える道路の将来像について、社会的な関心の高さが伺えました。



写真—4 シンポジウム会場の様子

なお、基調講演とパネルディスカッションの概要は当協会のホームページに掲載する予定で、現在準備を進めています。

記念シンポジウムの終了後は隣室に場所を変えて記念パーティーに移り、理事長の挨拶の後、ご来賓として旧監督官庁である国土交通省から事務次官 森昌文様、道路局長 池田豊人様、国土地理院長 村上広史様に、DRM データベース提供先を代表して株式会社ゼンリン取締役常務執行役員 事業統括本部長 藤沢秀幸様に、それぞれご祝辞を頂戴いたしました。



写真—5 ご祝辞 国土交通省事務次官 森昌文様



写真—6 ご祝辞 国土交通省道路局長 池田豊人様

また、来年度予算概算要求の作業等でお忙しい中、国土交通省道路局幹部の皆様にも多数のご出席をいただき、司会者が役職とお名前を紹介いたしました。

DRM 設立 30 周年



写真一七 ご祝辞 国土地理院長 村上広史様

DRM 設立 30 周年



写真一八 ご祝辞 (株)ゼンリン 藤沢秀幸様

そして前理事長 泉堅二郎氏の乾杯のご発声で懇談が始まり、ご参加の関係各位や当協会職員 OB の皆様が、現職の職員とともに楽しい有意義な時間を過ごされました。



写真一九 乾杯 前理事長 泉堅二郎氏



写真一〇 パーティー会場の様子

当日は台風13号の接近により風雨が強まる中、記念シンポジウム、記念パーティーともに約200名のご出席を賜り、会場が狭く感じられるほどでした。

ご参加の皆様には DRM30 周年記念誌、DRM ニュース 61 号 (30 周年記念特別号)、記念品をお持ち帰り頂き、盛会のうちに一連の行事を無事に終了いたしました。



図一 記念ロゴ

平成30年度第I四半期のDRMDB提供実績について

平成30年度第I四半期（平成30年4～6月）のDRMデータベース提供実績（表1）は、新車市場が前年をやや下回る中、1,891千枚（前年比103%）と堅調に推移し、第I四半期として過去最高の実績になりました。提供実績は、10四半期連続で前年を上回っております。

（表1）DRMデータベース提供実績

単位：千枚

	第I四半期	第II四半期	第III四半期	第IV四半期	年度合計	前年比	累計枚数
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月			
H25年度	1,396	1,516	1,847	1,881	6,640	101%	72,407
H26年度	1,586	1,585	1,677	1,724	6,572	99%	78,979
H27年度	1,527	1,424	1,550	1,758	6,259	95%	85,238
H28年度	1,649	1,656	1,716	1,942	6,963	111%	92,201
H29年度	1,840	1,830	1,878	2,004	7,552	108%	99,753
H30年度	1,891				1,891		101,644
前年比%	103%						

この内訳ですが（表2）、ナビ機器用への提供実績が、1,724千枚（前年比102%）で、そのうち新規ナビ機器用が1,480千枚（前年比103%）、更新需要用が243千枚（前年比101%）と新規ナビ機器用、更新需要用とも前年を上回りました。

さらに新規ナビ機器用の提供実績の内訳（表3）を見ますと、据置きナビ機器用が1,168千枚（前年比109%）と好調を持続しており、PND用117千枚（前年比85%）やスマートフォン組込み用195千枚（前年比85%）がいずれも前年を下回る中でも、新規ナビ機器用の全体を牽引致しました。

平成30年度第I四半期は、このように新規の据置きナビ機器用への提供実績が好調であったこと、更にはセンター地図型の提供実績（表4）も156千枚（前年比109%）と好調であったことが加わり、前年比103%の実績を達成致しました。

（表4）センター地図型用提供実績

単位：千枚

	H29年4-6月	H30年4-6月	前年比
ナビ機器用	1,686	1,724	102%
センター地図型用	142	156	109%
その他	12	11	96%
合計	1,840	1,891	103%

（表2）ナビ機器用提供実績と更新需要

【ナビ機器用提供実績】

単位：千枚

	第I四半期	第II四半期	第III四半期	第IV四半期	年度合計
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
H27年度	1,434	1,332	1,454	1,663	5,883
H28年度	1,557	1,570	1,622	1,840	6,589
H29年度	1,686	1,683	1,700	1,826	6,895
H30年度	1,724				1,724
前年比%	102%				

【新規ナビ機器用提供実績】

単位：千枚

	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	年度合計
	H27年度	1,233	1,124	1,182	
H28年度	1,337	1,276	1,369	1,547	5,529
H29年度	1,444	1,420	1,395	1,658	5,917
H30年度	1,480				1,480
前年比%	103%				

【更新需要用提供実績】

単位：千枚

	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	年度合計
	H27年度	201	207	273	
H28年度	220	295	253	293	1,061
H29年度	242	262	304	169	977
H30年度	243				243
前年比%	101%				

（表3）新規ナビ機器用提供実績の内訳

【据置きナビ機器用提供実績】

単位：千枚

	第I四半期	第II四半期	第III四半期	第IV四半期	年度合計
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
H27年度	1,010	771	854	1,131	3,766
H28年度	1,014	928	973	1,139	4,054
H29年度	1,076	1,074	1,058	1,345	4,553
H30年度	1,168				1,168
前年比%	109%				

【PND用提供実績】

単位：千枚

	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	年度合計
	H27年度	151	274	201	
H28年度	150	157	193	192	692
H29年度	139	124	120	118	501
H30年度	117				117
前年比%	85%				

【携帯・スマートフォン組込み用提供実績】

単位：千枚

	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	年度合計
	H27年度	69	77	124	
H28年度	173	188	203	215	779
H29年度	230	222	217	195	864
H30年度	195				195
前年比%	85%				

青森市立三内中学校の訪問学習

2018年7月5日（木）午前、青森市立三内中学校の生徒7名の皆さんが、訪問学習のためにDRM協会に来会しました。訪問学習は修学旅行の一環で、数名ずつのグループに分かれて都内のいくつかの企業等職場を訪問し、仕事の内容や働きがいを学ぶというものです。

当日協会ではデジタル道路地図の概要の説明とあらかじめ頂いていた質問への回答、その後は2班に分かれてデジタル道路地図データの体験制作を行いました。皆さん真剣に説明を聞き、地図更新の制作は楽しみながらやっていたと思われます。

後日、生徒の皆さんから訪問学習についての礼状が当協会へ寄せられました。

紙面の都合上、全体の掲載はかないませんが、代表者と生徒の皆さんの「お礼状」の抜粋を掲載します。



写真-1 訪問学習の様子

【代表者のお礼状】

“訪問を終えた生徒たちは、訪問したことを思い出して生き生きと語るなど、たくさんの事を心に刻むことが出来ました。この訪問で学ばせて頂いたことを生かし、よりよい生徒の育成に努めていく所存でございます”

【生徒の皆さんのお礼状】

[Aさん]

“デジタル道路地図は身近なところで使われ始めていることに驚きました。カーナビなどに使われていることを知り、デジタル化された地図の活躍の場が広がると思いました。”

[Bさん]

“ノードやリンクなどといった専門用語の知識をはじめ、地図の利用、作製、手直しなどたくさん体験をさせていただき良い経験になりました”

[Cさん]

“工事中の道路などは点線で表すことができ、ナビにも応用が出来ることが分かりました。デジタル道路地図が今後どんな風に発展していくのか、とても楽しみです。”

[Dさん]

“日本中で多くの人が使っているカーナビを作るにあたって一つにまとめて作らずに道路、細道路、背景などのデータを重ねて作る場所など、皆さんの仕事を良く知ることが出来ました。”

[Eさん]

“実際にアナログをデジタルに直す体験が私の印象に残りました。地図作成は大変でも美しい地図が出来たときは大きな達成感を得ることが出来ました。”

[Fさん]

“紙の地図よりデジタル道路地図の方がより使いやすく、精密で、正確で、世の中にはこんな便利なものがあるという事に感動しました。将来はもっと進化していくであろうデジタル道路地図に興味を持ってました。”

[Gさん]

“人の役に立つ仕事をする事の大切さを感じる事が出来ました。多くの作業が必要となる地図作りも様々な製品にされ、社会の役に立つためだと思いと仕事のやりがいも多く感じると思いました。”



写真-2 実際のデータで地図更新を体験する様子

コラム

進む自動運転の実証実験

理事長 奥平 聖

先日、日本自動車工業会が東京オリパラ前の2020.7.6～12に、羽田空港から臨海副都心において自動運転実証を公開するとプレスリリースした。参加企業10社、車両80台でレベル4相当の内容を安全に配慮してドライバーが乗車して行う。

実証内容は①路線バスをモデルとした実証・デモ②高速道路でのインフラ連携の実証・デモ③混合交通の公道での多様なタイプの車両による実証・デモとなっているが、詳細な中身は未定とのことである。

オリパラに合わせた自動運転の実証実験は以前から話題になっており、多くの関係者が注目していたところだが、いよいよ本格的に動き出した。

国土交通省においても昨年度、中山間地の道の駅を拠点とした自動運転サービスの実証実験を全国13地区で行った。技術的な検証結果を聞いて、「実際にやってみるといろんなことが起こるものだ」との感想をもった。というのは、例えば、

- ・低速走行のため、追禁区間で後続車に追い越された(交通違反の誘発)。しかも追い越し車両を障害物と検知して停車。
- ・交差点右折時に対向車を感知して停車。
- ・道路上の歩行者を障害物として感知して停車。
- ・路肩の雑草を障害物として検知して停車。
- ・路上駐車を避けられず停車。

などである。実験では停車するたびに同乗のドライバーがマニュアル介入した。

さらに〇電鉄が最近江ノ島で行った自動運転による路線バスの実証実験に試乗した記者さんのレポー

トを見つけた。感想は「ちっとも自動ではない」である。路上駐車を避けるとき、横断歩道で発車するとき、自転車を追い越すときなど運転者の手動運転の連続だったとのこと。国土交通省とほぼ同じである。

自動運転への期待が大きかった分だけ「期待外れ」との印象を持った人が多かったのだろう。設定通りの動作を確実に実行する器械と臨機応変の動作が得意な人間との違いを考えれば「さもありません」であるが、混合交通下の自動運転を社会実装するためには思った以上に多くの技術的課題があることが明らかになったのは大きな成果といえる。

そもそも自動運転の主な開発目的は「事故防止」、「交通弱者の足の確保」、「ドライバー不足対策」である。地方で高齢化と過疎化が急速に進む中、踏み間違い事故や逆走事故など高齢運転者型と言うべき事故が増えている。中山間地では鉄道やバスの廃止・減便により日常生活の足はマイカーに頼らざるを得ないのが実情であり、自動運転による安全で便利な新しいモビリティサービスの実現は文字通り救世主である。実現までには技術的課題のほかにも、道路交通法など交通ルールの整備、事故発生時の責任の所在の明確化、保険など補償制度の創設等さまざまな課題があり容易なことではない。過疎地域の高齢者の人生を豊かにする為にもこれらの課題を克服して、画期的なモビリティサービスシステムが早期に構築されることを願ってやまない。



一般財団法人 日本デジタル道路地図協会

〒102-0093 東京都千代田区平河町1丁目3番13号
ヒューリック平河町ビル5階

TEL.03-3222-7990 (代表)

FAX.03-3222-7991

URL:<http://www.drm.jp>

お問合せなどのアドレス: contact@drm.or.jp